

1. 事業名： 介護現場におけるインカム活用による業務効率化

2. 期間： 令和1年11月1日から令和2年4月30日

3. 目的

介護現場における働き方改革を推進するために、新たな通信機器（インカム）を活用し情報伝達業務の生産性向上を図る。5ヶ月間、現場のあらゆるシーンで活用いただく実証実験を行いその効果を図る。

実証実験を通じて課題の抽出と分析を行い、介護現場におけるコミュニケーション業務に関する更なる生産性向上を狙う。

4. 対象事業所

- ①老人保健施設 J
- ②老人保健施設 Y

5. 機器

特殊小型トランシーバー IC-4350

特徴：小型トランシーバー（免許不要）

防水防塵タイプ、充電式、イヤホン付き

周波数範囲	400MHz帯
送信出力	10mW/1mW（+20%～-50%）
スピーカー出力	40mW以上（8Ω負荷 10%歪率時）
チャンネル数	47ch（中継通話 27ch / 交互通話 20ch）
電源電圧	単三形アルカリ乾電池、充電式電池（ニッケル水素）BP-260
使用温度範囲	-10°C～+50°C
防塵/防水準規格	IP67
寸法（突起物を除く）	47（W）×81（H）×26.5（D）mm
重量	IC-4350：約120g、IC-4350L：約125g （充電式電池（ニッケル水素）BP-260装着時）



6. 取り組み

【教育】

10月29日（火）操作説明会の実施

当日出勤の可能な限りの職員さんに参加いただき操作説明会を実施。

講師：アイコム株式会社 松山様

【実践】

11月1日～3月31日を実証実験期間として1施設10セットずつ機器を貸出し職場内のあらゆるシーンでの活用をしていただく。

7. 効果の確認

【アンケートの実施】

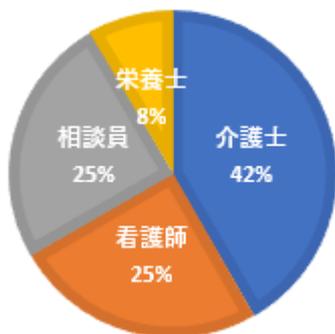
アンケートにて期間内の活用方法や感想を収集。

※新型コロナウイルス感染拡大の為、3月予定であった現地インタビューは見送りする。

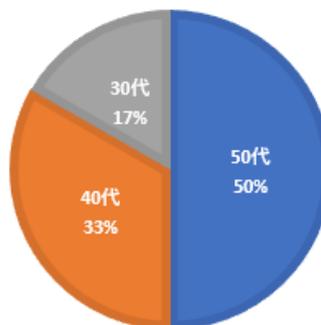
【アンケート分析】

アンケートは各施設6名の計12名収集。

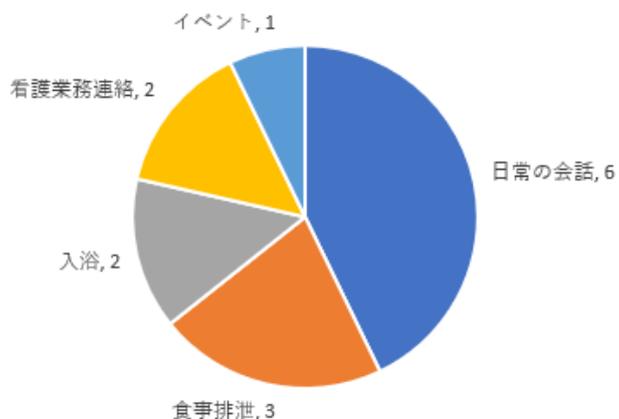
◇職種



◇年齢

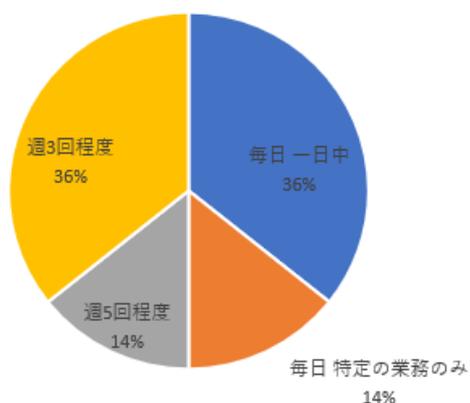


◇活用シーン



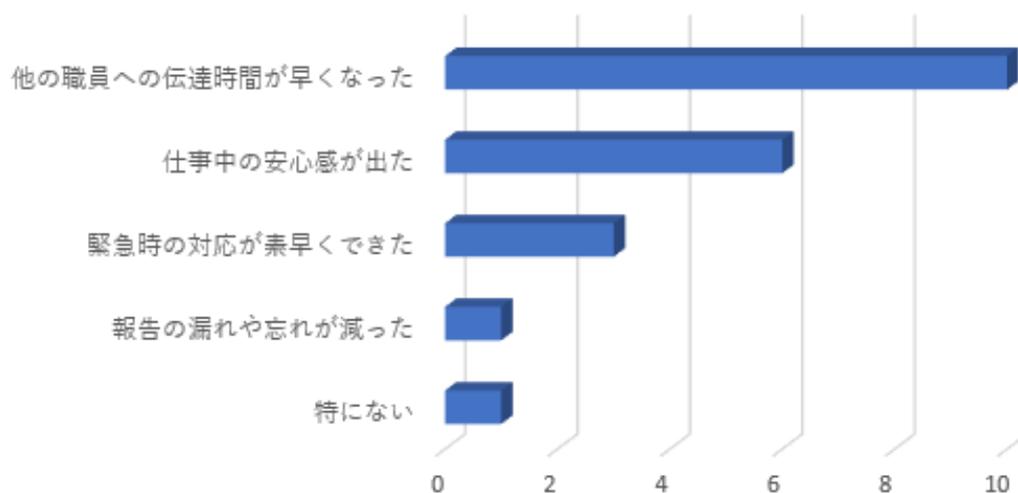
食事や排泄、入浴などの特定の作業に利用した職員がいる一方、日常利用での確認を頂いた方も多かったです。

◇活用頻度



毎日装着頂く方、週3回程度ご利用いただく方など職種や勤務状態に合わせて活用いただいた。

◇業務改善に繋がったと思われる点（複数回答）



◇具体的な改善内容、便利だと思ったこと（複数回答）

- ① 2人対応が必要な時、以前は近くの職員の手が空くまで待っていたが、インカムを利用することで手の空いている職員の対応が可能になった
- ② 大きな声で職員を呼ぶことが無くなり、周囲への気遣いや迷惑がなくなった
- ③ 以前は内線や館内放送を使って呼び出しをしていたが、インカムを使うと目的の職員への連絡が早くなった
- ④ 各職種への申し送り事項が、一斉に連絡できるようになり効率化が図れた
- ⑤ 他職種への情報伝達が早くなった
- ⑥ 急ぎの場面での情報伝達がスピーディーに対応できた
- ⑦ 他職種の職員を探すのに施設内を探し回ることが無くなった
- ⑧ 確認したいことがあれば、すぐに簡単に会話ができた
- ⑨ 職員を探す手間がなくなり身体的に楽になった
- ⑩ 来客時に便利であった
- ⑪ 普段なら伝えない内容まで簡単に伝えることができ連絡が密になった
- ⑫ 緊急時の情報共有や指示だしが素早くできた
- ⑬ 困ったときにその場から応援が呼べた

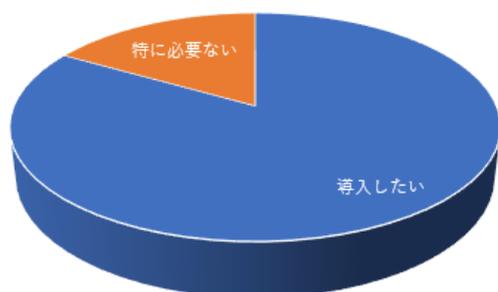
◇不便だと感じたこと（複数回答）

- ① 居室によってつながらない場所があった
- ② 浴室など水を使う場所では使えない
- ③ 建物間の電波は届かなかった
- ④ 大きくてポケットに入れると邪魔であった
- ⑤ イヤホンをずっとつけていると耳が痛い
- ⑥ コードが車椅子に引っかかる、体に絡まるなど作業の邪魔になった
- ⑦ 利用者に引っ張られることがあった
- ⑧ 重たかった

◇今回は利用しなかったが、他で活用できそうなことは

- ① 送迎車への誘導
- ② イベントなど屋外での情報伝達
- ③ 災害時の誘導

◇補助金などがあればそれを利用してインカム導入したいか



導入には前向きな意見を多く
頂いた。

8. 総評

アンケートの結果からも、インカムは介護現場における情報伝達業務において大きな業務改善効果があると言える。特に、他職種への情報伝達、緊急時の対応などは、現在主として使われている内線電話と比べ圧倒的な時短効果が得られる。これは、職員の負担軽減と共に、作業中の安心感を生み出している。またサービスの質の向上にもつながっている。また、今後利用を進める中では、災害時の対応やイベントでの活用など更なる効果も見込める。

課題としては、機器本体の重さやコードによる作業の妨げ、通信障害などが報告されている。今回利用したインカムは一般的な簡易型を利用したが、現在のインカム機器の中には、軽量設計のものやコードレスタイプも存在している。また、スマホ連携型のものやWi-Fi対応のものも出てきているため、活用シーンや施設の立地環境により機種選定すればより改善効果が得られると考えられる。

以上